



第6回ゆいまーる財団シンポジウム

# どうなる・どうする あなたの町村

## 沖縄から 地方創生 を考える



- ◆日時：2016年3月16日(水) 16:00～18:00(15:30開場)
- ◆会場：沖縄県市町村 自治会館 4F会議室 (那覇市旭町)
- ◆主催：一般財団法人 地球共生ゆいまーる
- ◆後援：沖縄県町村会

# 会次第

16:00 開会  
沖縄県町村会会長メッセージ

16:10～16:40 基調講演  
「沖縄の地方創生を考える」  
林 省吾  
公益財団法人全国市町村研修財団  
市町村職員中央研修所 学長

16:45～17:55 パネルディスカッション

18:00 閉会

## パネルディスカッション

### パネリスト:

林省吾 公益財団法人全国市町村研修財団  
市町村職員中央研修所学長

澁澤寿一 認定NPO法人共存の森ネットワーク理事長、  
豊森なりわい塾実行委員会委員長

田中克尚 沖縄県企画部地域・離島課課長

山城克己 元伊江島観光協会会長

### コーディネーター:

橋本晃和 当財団理事長、桜美林大学大学院特任教授

プログラムは都合により変更がございます

## ◆講演者・パネリスト紹介



### 林 省吾(はやし しょうご)

公益財団法人全国市町村研修財団市町村職員中央研修所 学長

岡山県生まれ。東京大学卒業。昭和45年自治省入省。京都府、外務省在サン・フランシスコ日本国総領事館、茨城県、静岡県教育委員会、静岡県総務部長、大阪府総務部長、総務省 大臣官房総括審議官等を務める。その後、平成14年より総務省自治財政局長、平成16年より総務省消防庁長官、平成17年より総務省事務次官、平成18年より一般財団法人地域創造理事長を歴任し、平成24年4月より現職



### 澁澤 寿一(しぶさわ じゅいち)

当財団評議員

1952年生まれ。80年国際協力事業団専門家としてパラグアイに赴く。帰国後、長崎オランダ村、ハウステンボスの建設・経営に携わる。マングローブ植林事業などを経て国内の森や地域づくりの現場へ。「聞き書き甲子園」を主催し、高校生と森や海で生きてきた名人達を繋げる事業や、木質バイオマスを利用した地域づくり「里山資本主義」などを手がける。認定NPO法人「共存の森ネットワーク」の理事長を務める。農学博士



### 山城 克己(やましろ かつみ)

元伊江島観光協会会長

1958年生まれ。76年米国サウスキャロライナ州農業研修生として渡米。伊江村青年会会長等を経て、2002年伊江島観光協会会長を5期10年、また同年より、伊江村議会議員を3期12年務める。2010年より沖縄県振興審議会離島過疎地域振興審議会委員。農林水産省「6次産業化ボランティア・プランナー」、沖縄県観光まちづくりアドバイザー歴任 2012年沖縄県観光功労賞受賞

### 田中 克尚(たなか かつよし)

沖縄県企画部地域・離島課 課長

千葉県出身。平成17年総務省入省。長崎県、総務省消防庁、内閣府官民競争入札等監理委員会、総務省自治税務局、七尾市企画経営部長を務め、平成24年から沖縄県庁で勤務。財政課勤務を経て平成25年から現職。離島・過疎地域を中心とした地域振興に取り組んでいる。

## ◆コーディネーター



### 橋本 晃和(はしもと あきかず)

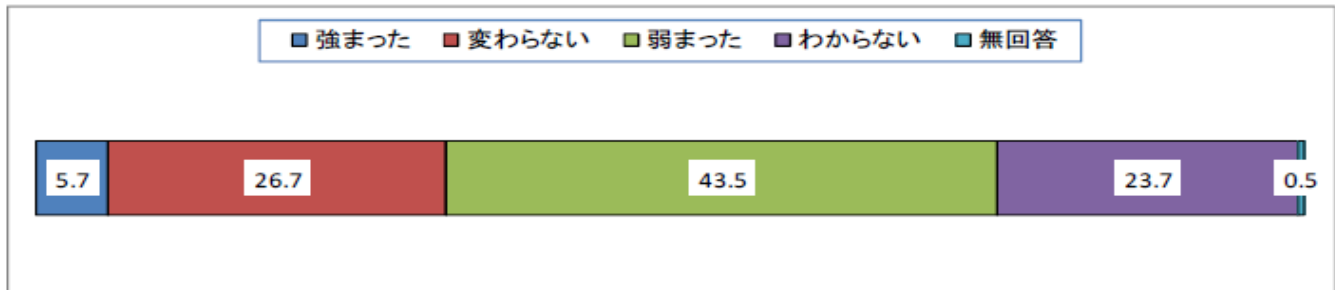
当財団理事長

1971年慶応大学大学院博士課程終了後、橋本リサーチコーポレーションを主宰。無党派層研究の第一人者。帝京大学教授、政策研究大学院大学教授(GRIPS)を歴任。GRIPSの留学生を沖縄に招待する「沖縄フィールドトリップ」を定年退職まで主宰。現在、桜美林大学大学院特任教授。専門は計量政治学、民意政治学、意識調査。法学博士。2015年7月マイク・モチヅキと共著「沖縄ソ リューション」を出版。

沖縄県企画部が平成24年10月に実施した沖縄県民を対象にした意識調査で以下のような結果が得られた。

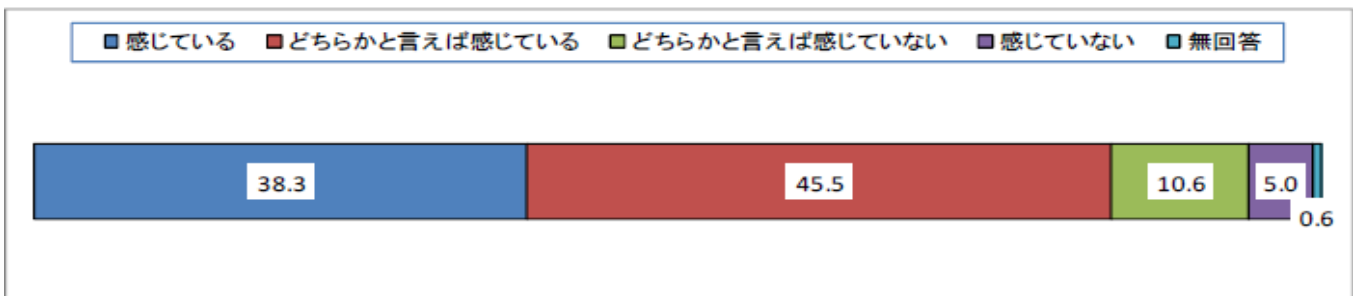
問1(1)10年前の沖縄に比べて、人と人のつながりは強まったと思いますか

図 1-1-1-1 問 1-1 人と人のつながり



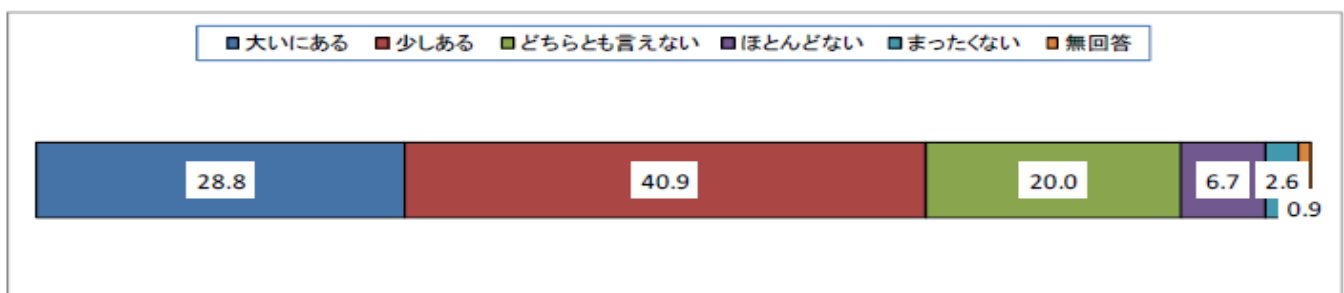
問1(4)あなたは今、「幸せ」だと感じていますか

図 1-1-4-1 問 1-4 「幸せ」だと感じているか



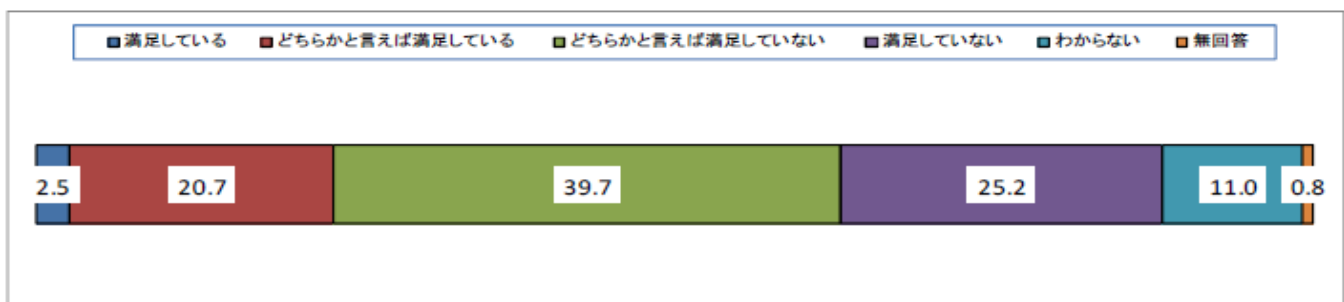
問1(11)あなたは「生きがい」にしていることはありますか。

図 1-1-11-1 問 1-11 生きがい



問1(12)あなたは、現在の社会に全体として満足していますか

図 1-2-1-1 問 1-12 社会に対する満足度



出典：第8回県民意識調査報告書 暮らしについてのアンケート結果(平成24年10月調査)  
平成26年3月 沖縄県企画部 27頁、34頁、49頁、51頁

# (一財)地球共生ゆいまーるが平成28年3月に実施した東京都民を対象にしたWEBによる意識調査で以下のような結果が得られた。

(東京に居住する15歳～79歳までの男女 回収1038票)

## Q6-1 10年前の東京に比べて、人と人のつながりやきずなは強まったと感じますか

■ そう感じる ■ どちらかと言えば感じる ■ どちらかと言えばそう感じない ■ そう感じない ■ わからない



## Q6-2 今、あなたは「幸せ」だと感じていますか

■ そう感じる ■ どちらかと言えば感じる ■ どちらかと言えばそう感じない ■ そう感じない ■ わからない



## Q6-3 あなたは「生きがい」を感じていますか

■ そう感じる ■ どちらかと言えば感じる ■ どちらかと言えばそう感じない ■ そう感じない ■ わからない



## Q7-6 あなたは、現在の社会に全体として満足していると思いますか

■ そう思う ■ どちらかと言えばそう思う ■ どちらかと言えばそう思わない ■ そう思わない ■ わからない



## Q7-8 あなたは、現在の社会に納得できると思いますか

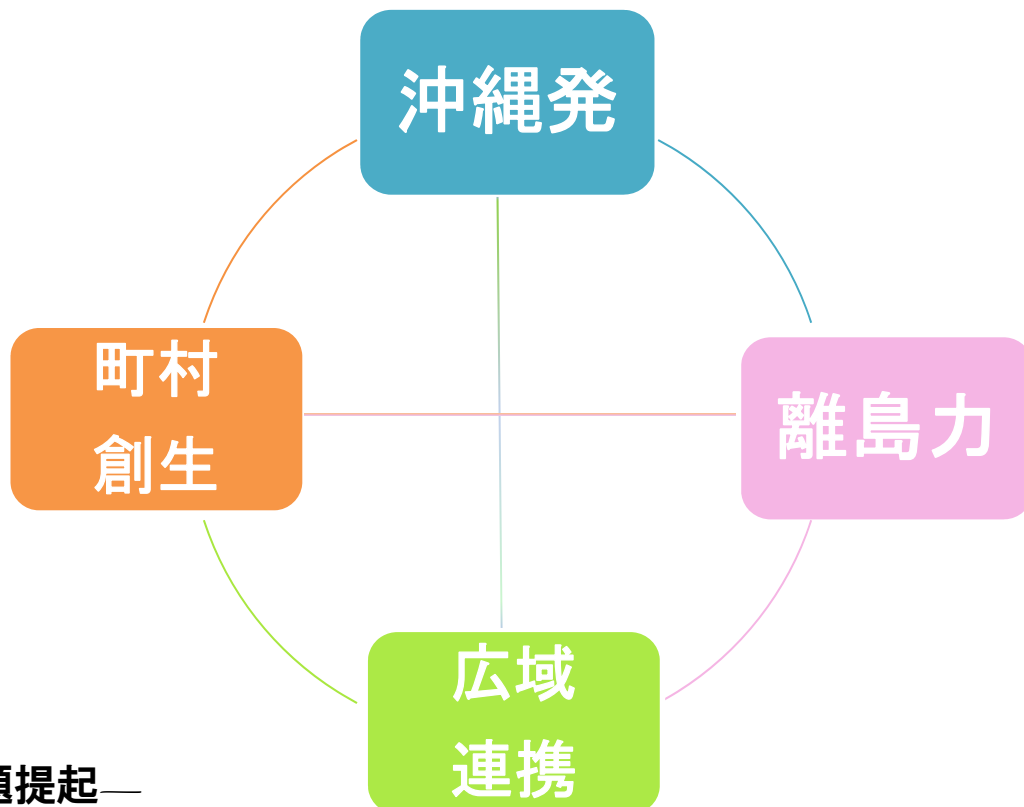
■ そう思う ■ どちらかと言えばそう思う ■ どちらかと言えばそう思わない ■ そう思わない ■ わからない



調査実施主体：一般財団法人地球共生ゆいまーる「くらしと安全に関するアンケート」

2016年3月実施 調査方法：インターネットリサーチ 東京都民15歳～79歳の男女 回収1038

## 沖縄発地方創生のための 4つのKey Words



### —問題提起—

#### 【地方創生】とは

「どの市町村においても地方創生はもっとも重要な課題であり、私たち行政だけでは到底なし得ない地方創生に向けた取り組みを自らの意思で担い、更なる創意工夫と住民の意識改革を図り、一步ずつ着実に前進する」  
(高良文雄会長 2016年1月号「自治おきなわ」新年のご挨拶より)

#### 【沖縄発】とは

「沖縄がもつ、地域力、文化力、伝統力、人間力、離島力、共生力、経済力」  
(同上 翁長知事新年のご挨拶より)

⇒「沖縄型」＝琉球の歴史と文化に育まれたさまざまな特性を  
どう活かしていくか

#### 【沖縄発地方創生】

複数の町村・離島が連携して、住民の自らの意思による地域創生ビジョンの策定・実施を行っていく。この実現のためには県の補完を通じて、関係各省(総務省・内閣府)と地方交付税の折衝をかさねる。(→沖縄型定住自立圏?)



MEMO



## ～未来を拓く地球共生システムの実現を目指して～

- ◆地球共生の構築に関する調査研究事業
- ◆地球共生の理解ならびに活動につながる対外的普及と啓発事業
- ◆日本およびアジア太平洋島嶼国の児童・青少年の沖縄における交流および育成事業
- ◆その他、本財団の目的達成に必要な事業

### 沖縄から人類共生の“いのち”を発信しよう！

私たちは限りある“いのち”あるものとして  
この地球上で お互いに出会い、  
共に支え合って生きている(ゆいまーる)

21世紀に生きる人類が未曾有の危機にあるときに  
後世に地球上の人々が共生できる環境を創り  
これを後世に継承する義務がある

この環境づくりに、もっともふさわしい場所  
それが「沖縄」！

沖縄は人類共生の「磁場」  
人間と人間の共生が「平和」  
人間と自然の共生が「環境」

一般財団法人 地球共生ゆいまーる



## 一般財団法人 地球共生ゆいまーる

Institute for global coexistence

本部 〒904-2142 沖縄県沖縄市上地1-10-19-401  
TEL/FAX:098-989-7937

E-mail: [yui-pica@nifty.com](mailto:yui-pica@nifty.com)  
URL: [www.yui-pica.or.jp](http://www.yui-pica.or.jp)